

ありがとうがつなぐ「縁」

縁（えん）

私たちがいまここに存在できるのは、無数のつながりのおかげでいまの自分が成り立っています。

このつながりを仏教では「縁」といいます。

縁起（えんぎ）

「縁」を根本とした仏教の教えが「縁起」

「此れあるがゆえに彼れあり、此れ生ずるがゆえに彼れ生ず」

（出典：パーリ仏典『自説経（ウダーナ）』ほか初期経典）

すべての存在はたがいに関わり合い、支え合うことで成り立っている。

「生かされている」と同時に、自分も誰かを「生かしている」

「ありがとう」

「有り難し（ありがたし）」＝めつたにないほど貴重なこと。

手助けやねぎらいの言葉は「有り難い」縁であり、当たり前ではない。

素直に「ありがとうございます」と伝えることが縁をつなぐ。

一期一会（いちごいちえ）

茶道の言葉で「この出会いは生涯に一度だけのもの」という意味。

「路地へ入ルヨリ出ヅルマデ、一期ニ一度ノ会ノヤウニ……」

（出典：千利休の言葉（山上宗二『山上宗二記』）後に井伊直弼が広める）

「一期」はもともと仏教語（一生の意）。縁起の教えとも深く通じています。

私たちは知らず知らずのうちに、誰かに支えられ、誰かを支えています。

世の中のあらゆる存在と「縁」によってつながり合い、そのつながりの中で生かされています。

日々の「有り難い」縁に気づきながら、「ありがとうございます」と素直に言える心を大切に。

令和八年六月二十五日

加茂法話会

田上町 安龍寺 齋藤隆光